

# 市数研だより

令和7年11月27日発行 NO. 5 熊本市中学校数学教育研究会

11月の定例会が11月13日（木）に楠中学校で行われました。令和8年度県大会に向けて、研究テーマに関する補足説明と各部会での授業づくりを行いました。

## 1. あいさつ

市数研会長（藤園中学校 東校長先生）

寒さを感じる時期になり、学校でもいろいろ秋の活動が盛んになってきていることだと思います。ところで先生方は全学調の結果をご覧になりましたか。熊本県の順位が41位と発表されています。さらに、九州が下位に固まっています。九州の数学が今どんなことに取り組んでいるのか、九州大会等を見ると「主体的な学び」や「対話」を重視した授業を研究しているようです。ですが、その研究が実際の全学調に結びついているかは疑問点です。そんな中で「本当の学力とは何だろうか」ということを問われていると思います。熊本の子どもたちにもっと数学の力をつけさせることができないかと考えています。また、市学調が始まる時期にもなりました。私たち教師はこれまでの市学調の結果を分析し、日々の指導につなげ、全学調や市学調においても授業で身につけた力を発揮できるようにしていくべきだと思います。子どもたちにどのような力を付けさせたがいいのか、その力が1・2年後にどのように表れていくのか想像しながら指導してほしいと思います。教育委員会等の話を聞くと、熊本市の理系教科の学力について特に力を入れていくべきと話題になっているそうです。ぜひ、市数研の先生方と力を合わせて熊本県の数学が盛り上がりっていくように力を尽くしていければなと思っています。



## 2. 令和8年度県大会の研究テーマに関する補足説明

研究部長（城南中学校 椎葉先生）

研究テーマの補足説明や整理した2つの部分を共有できればと思います。

- 探究的な学習を通してどのような生徒の姿を目指すか
- 授業のイメージの再整理

1. 数学に関すること、探究的な学習で目指す姿を分けて整理したいと思います。

＜探究的な学習における目指す生徒の姿＞

○問い合わせの目的性

なぜ状況を変える必要があるのか、何を明らかにしたいかを自分なりにもっている生徒

○結果の考察・説明

変えた結果をもとにどのようなことがいえるのかを論理的に説明することができる生徒

○振り返り・発展的思考

分析をしたうえで、次にこういった内容をしてみたいと考えることができる生徒

また、探究的な学習を通して目指す生徒の姿を3段階に分けて考えました。

第1段階…探究的な学習とはなんだろうということを理解する

第2段階…条件を変えて考えることができる

第3段階…自分で目的をもって条件を変える・結果をもとに他の単元と結びつけることができる

今回の県大会では第2段階までの生徒の姿（条件を変えて結果を比較し、分析・説明することができるような生徒の姿）を授業でお見せできればと思います。

2. 「探究的な学習とは、数学的な見方・考え方を起点に目的をもった条件の変化や発展を重ねる学習であり、その積み重ねの中で統合的な理解へと至る営み」と考えています。今回の県大会では、②の部分を授業で見せたいと思っています。中心となる②の部分に時間がかけられるように、①共通問題については条件を複雑にしそぎ易しめのものから始めてよいと思います。また、目的を意識した条件変更の発問を、以前の説明では「なぜこの条件をかえるとよいのか」という例を提示しましたが、「次にどんなことをしたい？」「これがレベル1だとすると、レベル2は何だろう？」と投げかけて考えさせるのもよいのではないかと思います。発問や、意見の共有の仕方についても、これから事前研を通して研究を進めていきたいと思います。

＜探究的な学習を実現するための授業のモデル＞

①共通問題の解決

②目的をもった発展・条件の変化

③共有(数学的な見方・考え方の比較・関連づけ)

④統合(学びの再構成)

### 3. 熊本市授業研究会に向けた指導案検討会・授業づくり



各部会に分かれて指導案検討・授業づくりを行いました。これから事前研も行われ、本番に向けて授業が練り上げられていきます。検討会では、授業の題材、その授業で身に付けさせたい力（ねらい）など、どの部会でも活発な意見交換が行われていました。

### 3. まとめ

市数研副会長（楠中学校 坂口校長先生）



い先生方はそこを見るとよいと思います。また、授業づくりにおいては、教材で授業が決まるといつても過言ではないですが、その教材探しが難しいなと思います。ただ、椎葉先生からの話を聞いていると、意外と発問で決まるのだなとも思いました。主発問で生徒たちの活動を活性化させる必要があります。私は普段、若手の先生に「質問ではダメ。発問をしないと！」とよく言います。子どもたちにどのような言葉を投げかけるかはしっかりと考えておくべきです。例えば、「別の方法はないかな」「〇〇でもできるのかな」「グラフを変えてみたらどうかな」などの発問が思い浮かびますが、探究的な学びに向かわせるとなると、子どもたちをより本質に近づけるための発問をしていくことになると思います。こういったことも私たちが試してみて日頃から経験していかないと、子どもたちをどのように探究的な学びに導いていけるのかまだまだ難しさがあるなと思いました。これから先生方の日頃の授業で「この問い合わせが次の学びへつながりました」という発問を集めたいという気持ちになりました。先生方の英知が詰まった授業が出来上がると思うと楽しみです。

### 4. お知らせ

#### ●12月の研修会(忘年会)のお知らせ

日時: **12月5日(金) 18:30~21:00**  
場所: **水前寺共済会館 グレーシア**  
講師: **若松 和憲先生(城西中教頭)**  
会費: **4,000円**

#### ●次回の定例会は、**1月15日(木)18時30分～ 白川中学校**であります。

ご質問やご感想がありましたら、下記のアドレスまでお願いします。

udo.haruka@kumamoto-kmm.ed.jp

- ・定例会へ多数の先生方のご参加をお願いします！！
- ・各学校から1名以上の参加をぜひともお願いします！！
- ・特に若手の先生方、遠慮せずに参加して、市数研の底上げを図っていきましょう。主任の先生方、呼びかけをよろしくお願いします。

文責 二岡中学校 有働 遥香